

令和4年度 長岡京市北地域包括支援センターアクションプラン及び実績報告

北包括目標	アクションプラン(行動計画)	令和4年度実施内容	評価	課題・改善点
①「私が頼れる包括」～つながりを大切に寄り添う支援	<p>①総合相談窓口としての機能を果たす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別相談の課題やニーズに沿って迅速な対応を行う。 認知症相談については必要に応じて認知症初期集中支援チームに繋ぐ。 <p>②職員のスキルアップを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務内容に関連する研修に参加し、日常の相談業務に活かす。 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月～3月：総合相談実人数（新規）570人、総合相談延べ人数5,816人、相談延べ件数7,506件であった。 認知症初期集中支援チームに3ケース相談、2ケースはチーム対応、1ケースは地区包括対応となった。 <p>②5/13京都式ケアプラン点検研修会に三職種及びプランナーが参加。6/15課題整理総括表の活用～日常業務実践編～、7/20長岡京市介護予防ケアプラン点検、9/29「退院直後、安定期、看取り期におけるリハビリ専門職の関わり」研修、10/24「正しく恐れる感染対策」研修、11/11「身近なところでDVが起こったら」研修、11/17「医療介護連携のためのオンライン研修会」、11/19「コロナ在宅療養」研修、11/21「虐待の淵を生き抜いて」研修、11/30「利用者を支えるACPのポイント」研修、12/14北部アルコール関連セミナー、1/13「認知症について」、1/19「ムダな会議にしたいくない！～ワクワクする地域ケア会議へ」、1/25「看取りについて」、1/30「生活支援コーディネータースキルアップ研修」、2/13・15「HDS-Rを現場で生かす」、3/22「事例法律相談」に三職種が参加。</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> 安否確認をしたケースが5ケースあり、内2件が孤独死、内1件はゴミ屋敷状態だった。地域住民や新聞配達店、コンビニからの連絡、情報を受けて対応した。 認知症に関わる相談が増えている（年間延べ432件）。 長岡京市認知症ケアパスガイドを紹介し認知症の理解を深めた。 認知症初期集中支援チームに繋ぐことで、目標に向けて必要な支援を継続的に行うことができる。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でオンライン研修が主流となっている。オンラインで研修受講できる環境が整ったことで、研修への参加機会が増えた。 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> 例年よりも安否確認の要請が増えている。いずれも独居高齢者であり、発見には地域の見守りの目が重要である。 要介護認定を受け介護保険サービスを利用希望されるケースの居宅介護支援事業所の紹介先が見つからず、市外の居宅介護支援事業所を紹介するケースが増えている。 認知症対応や専門医受診につながらず家族が苦慮しているケースが増えている。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> オンライン研修に積極的に参加しスキルアップを図る。
②「私のためにできること」～元気に暮らす意識付け	<p>①介護予防や認知症の知識を普及・啓発する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域から要請のある出張講座（認知症サポーター養成講座含む）に出向き、地域包括支援センターの役割と機能を周知し、介護予防・フレイル・認知症・感染症対策・高齢者虐待防止・介護保険・おでかけあんしん見守り事業について啓発活動を行う。 	<p>①</p> <p>5/21一文橋サロンゆいにて社協の仕事、終活について、5/24井ノ内カフェにて軽くない身体作り、6/14西の京老人クラブにて包括とは・介護予防体操・脳トレ、7/15野添一人暮らし高齢者の会にて包括とは・脳トレメインで、7/21小畑町一人暮らし高齢者の会にて包括とは・介護保険申請・サービスの話、9/26民児協福祉部会研修にて包括と民生委員の関係性、10/18老人クラブときわ会にてデュアルタスクトレーニング、秋バテ防止・養生の話、1/21一文橋サロンゆいにて地域の困りごとについて、2/14今里いずみ会にてデュアルタスクトレーニング、冬場の脱水、2/14西の京老人クラブ福寿会にて高齢者の権利擁護について、2/22柴の里コアふれまちにて終活について出張講座を行った。</p>	<p>①</p> <p>感染状況によって申込依頼があれば包括対応の可否を検討しながら年間11件の出張講座を行った。終活に対する関心が高まっており、行政書士による講座を開催した。</p>	<p>①</p> <p>地域から出張講座の依頼があれば、新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら対応する。講座依頼の内容、ニーズに合わせた対応をおこなっていく。</p>
③「私らしく生きる」～密なネットワーク構築と途切れない個別支援	<p>①処遇困難ケースや虐待ケースの検討を行い課題解決を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域ケア個別会議を開催し、地域や関係機関とのネットワークを構築し、個別ケースの課題解決を図るとともに、地域課題の発見に繋げる。 生活支援コーディネーター、認知症地域支援推進員、行政を交え、地域ケアマネジメント会議を開催し、個別ケースや地域課題に関する意見を出し合う。 行政、関係機関と協議することで虐待防止に向けた支援を行う。 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域ケア個別会議を11回開催した。内容は精神疾患が疑われ浪費により生活困窮しているケース、親族が疎遠な状況で入居している施設での生活が困難となっているケース、親族が金銭管理をしているが管理状況が不透明で成年後見制度を検討したケース、ケアマネジャー交代に伴う課題整理をしたケース、本人と後見人との関係改善に向けての会議を行ったケース、妄想性障がいと認知症があつて近隣とのトラブルが頻回に発生しているケース、入院しているが身寄りはなく在宅に戻ることができないケース。 7/12に地域ケアマネジメント会議内にて、担当するケアマネジャーからケース共有の依頼を受け、生活支援コーディネーター、認知症地域支援推進員、行政、特定事業所加算を取っている居宅の主任CMを交え、支援について協議した。 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> 処遇困難ケースについて、多職種で協議することで、多様な意見を聞くことができ、課題や問題解決に向けての方向性を共有することができた。地域住民を交えて地域ケア個別会議を開催する際は、個人情報に関する誓約書を取っている。 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民を交えて地域ケア個別会議を開催する際は、個人情報に関する誓約書を取ることで、個人情報に配慮しながら活発な意見交換ができるようになる。
④「私が地域でできること」～共に住みたい地域づくり	<p>①個別ケースから見えてくる課題を、地域の課題として検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活支援コーディネーター、行政と協働し、第二層協議体を通して、地域の困りごとや支え合いを広める話し合いに参画する。 地域ケア推進会議を開催し、生活支援コーディネーター、行政と共に、地域に必要な社会資源の開発に繋げる。 <p>②地域の資源を活用し、支え合い活動を普及する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 出張講座や個別のケース相談を通して地域の社会資源を紹介する。 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> 第二層協議体の話し合いには未参画。 地域ケア推進会議は、相談ケースから抽出された課題をテーマに3/3地域ケア推進会議を開催した。テーマは「空き家に関する地域の困りごとについて」とし、民生委員、生活支援コーディネーター、行政関係機関と共に協議した。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> 出張講座や民生児童委員定例会で個別相談を受ける機会が増えた。民生委員と情報共有を図り問題解決を図った。 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> 長岡京市が行っている空き家対策について出張講座や総合相談の中で周知していく必要がある。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> 顔の見える関係づくりが構築されたと思われる。地域で行われているカフェやサロン、お助けサポーター等の紹介を行い利用につなげている。 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活支援コーディネーターとの連携、情報共有を行っていく。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の新たな資源の把握、活用を行い、支え合い活動の普及を図る。